

3

十四衆乙二六

昭和十六年四月四日決定

昭和十六年四月二日

内閣書記官長

内閣書記官

内閣總理大臣



法制局長官



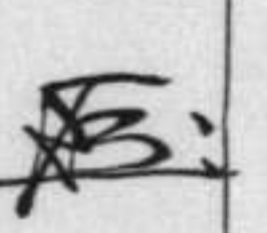
外務大臣



陸軍大臣



文部大臣



逓信大臣



厚生大臣



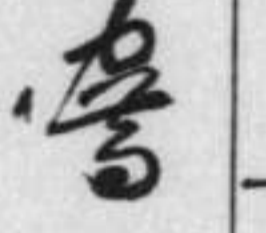
内務大臣



海軍大臣



農林大臣



鐵道大臣



星野國務大臣



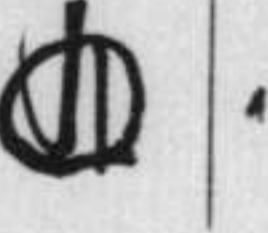
大藏大臣



司法大臣



商工大臣



拓務大臣



小倉國務大臣



別紙衆議院議決肇國ノ紀元ニ關スル請願

ヲ審査スルニ本請願ノ要旨ハ人皇ノ祖 神武

天皇ハ神代ノ祖 天照皇大神ト異姓ノ帝王ニ

元

在セラレズ又其ノ宗家ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立  
テサセラレタルガ如キ副系ニモマシマサズ故ニ我  
が大日本帝國皇統ガ天祖 天照皇大神  
ヨリ神代人皇ヲ通ジテ萬世無窮ニ亘ラセ  
給フコトハ何人モ疑ヒナキ所ナリ依テ萬世一系ノ  
皇統御代數ハ皇統ヲ萬世ニ垂レサセ給ヒタル  
皇元祖 天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジ  
テ數ヘ奉ルコトトセラレ而シテ天壤無窮ノ皇運  
ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル事實ヲ明示  
シ肇國ハ世界ノアラユル古國ノ其レヲ超越セル

事實ヲ表示セラレタシト謂フニ在リ

按ズルニ我が大日本帝國皇統ハ天祖 天照  
皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ萬世無窮ニ  
亘ラセ給フモノナルヲ以テ萬世一系ノ皇統御代  
數ハ神代人皇ヲ通ジテ皇元祖 天照皇大  
神ヨリ數ヘ奉ルコトトスルヲ以テ洵ニ至當ナリト  
思料セラルルトコロナルモ凡ソ神代ノ事タル悠久  
ニシテ時期ヲ神代ニ溯リテ定ムルハ難事ナリト  
思料セラルルニ依リ此ノ點ノ確定ヲ前提トスル  
本件ハ今遽ニ之ヲ採用スルコト能ハザルモノト認

ム  
依テ右ノ趣閣議決定相成可然ト認ム

意見書

(請願特別報告第七〇號)

請願文書表第一八〇號

肇國ノ紀元ニ關スル請願 廣島縣安藝郡瀬野村大字瀬野千六百四十三番地松永良作

外十六名呈出(紹介議員山道襄一君)

同 第二一九號

同 上 廣島縣加茂郡原村八百九十四番地公吏佐々木源太郎外十四名呈出(紹介

議員山道襄一君)

右請願ノ要旨ハ人皇ノ祖 神武天皇ハ神代ノ祖 天照皇大神ト異姓ノ帝王ニ在ラセラレス  
又其ノ宗系ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立テサセラレタルカ如キ副系ニモマシマサス故ニ我カ大  
日本帝國皇統カ天祖 天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ萬世無窮ニ互ラセ給フコトハ何人  
モ疑ヒナキ所ナリ依テ萬世一系ノ皇統御代數ハ皇統ヲ萬世ニ垂レサセ給ヒタル皇元祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ數ヘ奉ルコトトセラレ而シテ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル事實ヲ明示シ肇國ハ世界ノアラユル古國ノ其レヲ超越セル事實ヲ表示セラレタシト謂フニ在リ

衆議院ハ其ノ趣旨ヲ至當ナリト認メ之ヲ採擇スヘキモノト議決セリ依テ議院法第六十五條ニ依リ別冊及御送付候也

昭和十四年三月二十五日

衆議院議長 小山松壽



内閣總理大臣 男爵 平沼騏一郎 殿

衆議院書記官長 大木



參考

皇祖天照大神ト御歴代ノ 天皇トガ一系ニマシマスコトハ天壤無窮ノ神勅ニ明示セラレ集國史ニ炳トシテ輝ク事實ニシテ國民皆之ヲ誇リトシ常ニ仰々所ナリ而シテ 神武天皇ヲ御一代ノ 天皇ト仰グハ特ニ播原ノ地ニ於テ 御即位アラセラレタル史實ニヨルモノニシテ記紀其他ノ古典ノ共ニ之ヲ明記スル所ナリ而シテ我が國ノ教育ニ於テハ國史ハモトヨリ修身、公民、國語其他有ユル機會ニカカル肇國ノ事實ヲ明確ニ教授スルニ努メツツアルヲ以テ請願者ガ「神武ノ御武威ヲ仰ギテ始メテ確實トナリシカト迄疑ヒ奉リ若クハ萬世一系ノ皇位モ神武ノ中洲御平定ニ依ツテ始メテ認メラレ同時ニ皇大神ノ 神勅ガ有效トナラセラレタルカノ如クニ伺ハレ隨ツテ我國體ノ金甌無缺ナル所以ガ人皇ノ祖以後ニ於テノミノ事ニ屬シタリシモノカノヤウニ誤マラレ云々」ノ點ハ今後懸念ナキモノト信ズ

我が肇國ハ悠久ニシテ年代ヲ明示シ得ベキモノニアラズ日向御三代ヲ御歴代ニ數ヘタリトスルモ却ツテ悠久ナル肇國ヲ限定スル懼ナシトセ

ズ況ンヤ皇統ノ御代數ハ古典以來ニ定メラレタル所ニシテ之ニ改訂ヲ  
加フルガ如キハ畏レ多キ次第ナリ請願者ガ「列聖ノ御代號ヲ中興ノ祖  
ヨリ數ヘ奉リ或ハ又我帝國ノ紀元ヲソノ年代ノ途中ニ置キテ殆ドアラ  
ユル場合ニ我國ハ神武御創業以來云々ト稱フルトキハ我國ノ年齢ハ其  
ノ古サニ於テ世界歴史ノ立場ヨリ見テ第二流ト云々トセルハ歴史  
史ノ見方ニ誤アルガ如シ世界ニ我が國ヨリ古キ所謂第一流ノ國ハ存在  
セオ我ガ國ハ古サヲ示スタメニ皇統ノ御代數ヲ改訂セントスルガ如キ  
ハ全ク不要ナリ又神武創業ト申スコトモ常ニ生成發展シテヤムコトナ  
キ我國ニ於テハソノ以前ヲ否定スルモノニアラスシテコノ時期ニ皇威  
ガ著シク伸張セラレタルヲ示スモノト解セラレ  
伊勢神宮ノ大祭日ヲ報本反始ノ誠ヲ致ス國民ノ意義深キ日ト定メ曆及  
ビ教科書等ヲコノ意味ニテ改正セヨトノ請願ナレドモ伊勢神宮奉拜ノ  
コトハ不斷ニ行ハレツツアル所又大嘗祭新嘗祭ノ意義モ國民ニ漸次徹  
底シツツアリサレバ皇祖天照大神ヲ奉拜スル特定ノ日ヲ設ケザル所ニ

却ツテヨリ深キ意義アリト思ハル

「天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル事實ト特ニ我皇室  
ハ大神ノ正裔ニマシマスニ依リソノ尊嚴ノ絕對ニマシマス所以ヲ明示  
シ云々」トノ點ハ我が教育ノ根本精神トシテ常ニ明確且ツ慎重ニ取扱  
ヒ居リ「萬世一系ノ御代數ヲ直接中心ニ仰ギ奉リ得ル關係ヲ皇別ノ民  
ノミナラズ神別蕃別ノ民ノ思想ニモ及ボサレ云々」ハ既ニ我が國史ニ  
於テ實現シ居ル所今後ニ於テモ亦然ルベキハ當然ノコトナリトス

學  
周



法制局閣第一三二號  
昭和十四年六月五日

内閣衆乙第 六六 號

昭和十四年六月五日

内閣總理大臣男爵平沼騏一郎



内閣總理大臣 男爵平沼騏一郎 殿

別紙衆議院議決

一 法律國ノ紀元ニ関スル請願

右貴省主管ノ件ニ付書類及回付候

内閣

全  
本

法制局  
(佐藤)

意見書

請願文書表第一八〇號

肇國ノ紀元ニ關スル請願 廣島縣安藝郡瀬野村大字瀬野千六百四十三番地松永良作

外十六名呈出(紹介議員山道襄一君)

同 第二一九號

同 上 廣島縣加茂郡原村八百九十四番地公吏佐々木源太郎外十四名呈出(紹介

議員山道襄一君)

右請願ノ要旨ハ人皇ノ祖 神武天皇ハ神代ノ祖、天照皇大神ト異姓ノ帝王ニ在ラセラレス  
又其ノ宗系ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立テサセラレタルカ如キ副系ニモマシマサス故ニ我カ大  
日本帝國皇統カ天祖 天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ萬世無窮ニ互ラセ給フコトハ何人  
モ疑ヒナキ所ナリ依テ萬世一系ノ皇統御代數ハ皇統ヲ萬世ニ垂レサセ給ヒタル皇元祖

(請願特別報告第七〇號)

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通シテ數ヘ奉ルコトトセラレ而シテ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給ヘル事實ヲ明示シ肇國ハ世界ノアラユル古國ノ其レヲ超越セル事實ヲ表示セラレタシト謂フニ在リ

昭和十四年 參月 貳拾五日

衆議院議長 小山 松壽

内閣總理大臣 男爵 平沼 騏一郎 殿

衆議院書記官長 大木 操

昭和十四年二月七日  
請願第一八〇

紹介録  
山道重一

山道重一

萬世一系ノ皇統御太元並ニ  
肇國ノ紀元ニ關スル請願書

廣島縣安藝郡瀬野村字上瀬野一六〇三番地

松 永 良 依

外一六名

衆之



萬世一系ノ皇統御太元重キ肇國ノ紀元ニ關スル請願

謹ミテ惟ミルニ我大日本國

皇帝陛下ハ天祖即チ皇太祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ萬世一系ニ連

綿シ給ヘルニ拘ハラズ從來コノ皇統ノ御代號ヲ人

皇ノ祖神武天皇ヨリ起算シ奉リ我國ノ紀元モ亦

同帝御即位ノ年ヲ以テ元年ト定メラレアルモ人皇ノ

祖ハ神代ノ祖ト異姓ノ帝王ニアラセラレズ又其宗系

ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立テサセラレタルガ如キ副系ニモマシ

マサズ天祖ノ正系タル皇室ニ御誕生遊バシテ御年十五ノ

時御父鵜草葺不合尊ヨリ既ニ皇太子ニ定メ

レ給ヘル御方ナレバタトヒ中州御平定ノ御事オクトモ我國  
ノ天位ニ就カセ給フヘキ御資格ヲ有シ給ヘリサレバ  
萬世一系ノ皇位ハ神武ノ御偉功ニ依リテ初メテ歳ヲ  
得給ヒシニアラズ即チソノ御即位ハ甚ダ恐レ多キ例ナレトモ  
鎌足ノ中臣氏ニ於ケルガ如ク

君ヨリ賜ハリタル恩姓ニ依シテ藤原氏ノ祖トオリシガ如ク  
シ又家康ノ徳川氏ニ於ケルガ如ク新ニ重職ニ任ゼラレ  
テ徳川將軍ノ祖トナリシガ如ク無資格ヨリ有資格ニ  
入ラセ給ヒシニアラズ既ニ有シ給ヘル皇太子ノ有資格  
ヨリ有資格ニ入ラセ給ヒシモノニシテ無資格者ヨリ有  
資格者ニナリ給ヒシニアラズ

試ニ人皇ノ祖ノ御事蹟ノ大要ヲ他ノ諸帝ノ御事

蹟ニ比シ奉ラシニ先ヅ

神武天皇御東征ノ御壯舉ハ其御趣旨ニ於テ景行天皇

ノ御西征若クハ仲哀天皇ノ御西征ニ同ジ皆皇祖ノ

授ケ給ヒシ國ヲ安ラカニ治メ給ハンガ爲メニ國內ニハビ

コリタルマツロハ又者共ヲ討チ平ゲ給ヒタルナリ即チ内亂

ヲ御鎮定マシマシタルナリ決シテ最初ノ御創業若クハ

領土擴張ノ爲メニ他國ヲ侵略シ給ヒタルニアラズ

又神武ノ御遷都ハ其御道程ノ長サニ於テ明治ノ

御遷都ニ同ジ而モ天孫ノ高天ヶ原ヨリ筑紫ノ日

向ニ御遷都マシマセン規模ノ大ナルニハ及バセ給ハズ

又神武天皇御即位ノ御儀式ハ他ノ歴代御即位ノ

御儀式ト同ジク同帝萬歳ノ御即位式ニシテ決シテ萬

世に涉ラセラル、皇位始メト云フ義ノ御儀式ニテハ  
ラセラレズ皇國ノ皇位ハ千早振ル神代ノ音ニ於テ世界  
人類ノ太祖先ニテマシヤス

伊弉諾 伊弉册ノ二尊ガ 宇宙ノ萬有ヲ統宰シ  
給ヘル 天之御中主神以下諸ノ天神ノ神勅ヲ承ケ  
給ヒテ 國土ヲ開キ蒼生ヲ生ミ而シテコレガ統宰ノ  
爲ニ天ノ下ニ主トシテ生ミ奉リ給ヒシ 貴子即チ  
天照皇大神御出現ノ御時ニ肇マラセ給ヒコソ 皇位ノ  
萬世無窮ニ傳ハラセ給フコトノ御儀式モ既ニ 皇祖  
皇大神ガ 皇孫ノ尊ニ 天ツ日嗣ノ御璽タル三種ノ  
神器ト共ニ我大日本ノ國土ヲ授ケ給フ御時「天壤無窮」ノ  
御神勅ヲ以テ完全ニ行ハセ給ヒキサレバ 宮中ニ於カセ

ラレテハ 皇孫瓊々杵尊以來御歷代ノ天皇何レモ  
天照皇大神ヲ 皇祖ト崇メ奉リ祭祀ヲ慎ミ至大ノ  
孝養ヲ盡シ給ヒ國民モ亦皆  
伊勢大廟ヲ國家ノ總氏神ト唱ヘ奉リテ世々崇敬シ  
祀リケレバソノ大祭日ハ往古ハ恰モ皇國ノ建國祭  
即チ肇國ノ紀元節ニモ該當シタリシモノナリトモ  
言ヒ得ベシ

次ニ御政治ヲ伺ヒ奉ルニ 神武天皇ハ天上乃至日向  
朝廷ノ御政治振ヲ一層ニ御整頓遊バシタレモソノ御政  
體ノ祭政一致タリシトイフ點ニ至リテハ 帝以前及ビ以  
後八朝ノ間ニ異レルコトナシ故ニ政變トシテハ此御時  
リハ寧ロ 崇神帝ノ祭ト政トヲ區別シ給ヒシガ如キ

孝德帝ノ大化改新ノ如キ 後鳥羽帝ノ政治ヲ武門ニ  
委ネ給ヒシガ如キ又近ク 明治帝ノ立憲政ヲ布キ  
給ヒシガ如キヲ以テ著シトスサレバ 崇神ノ御代六  
年迄行ハレタル我國最初ノ政體ハ 人皇ノ祖以前  
ニ溯リテ遠ク 天祖ノ御代ヨリ始マレリ  
此外産業ノ基モ教育ノ淵源モ亦皆然ラザルハナシ  
然ルヲ太古神代ノ事ハ沙漠トシテ攷フベカラズトナシテ  
是ヲ究メズ或ハ 列聖ノ御代號ヲ 中興ノ祖ヨリ數  
ヘ奉リ或ハ又我帝國ノ紀元ヲソノ年代ノ途中ニ置キ  
テ殆アラユル場合ニ我國ハ 神武創業以來云々ト稱  
フルハ我國ノ年齢ハ其古サニ於テ世界歷史上ノ立場ヨ  
リ見テ第二流トナルノミナラズ我 皇基ハ 大神ノ神勅ニ

依リテ確實ニ定マラセ給ヒシヲ 神武ノ御武威ヲ  
仰ギテ始メテ確實トナリシカト迄疑ヒ奉リ若クハ  
萬世一系ノ皇位モ 神武ノ中州御平定ニ依リテ  
始メテ認メラレ同時ニ 皇大神ノ神勅ガ有効ト  
ナラセラレタルカノ如クニ伺ハレ 即チ天爲ハ人爲ニ  
見エサセラレテソレト引替ヘニ一面ニ於テハ彼ノ長髓彦  
ヤ 大國主命ノ一系ガ我國土ノ主權者トシテ却テ内  
外ヨリ 大統以上ニ認メラレ 隨ツテ我國體ノ金甌  
無缺ナル所以ガ 人皇ノ祖以後ニ於テノミノ事ニ屬  
シ以前ニ於テハ開闢以來幾度カノ革命アリタリシ  
モノカノヤウニ誤マラレ殊ニ 神武天皇ガ 皇祖ノ  
授ケ給ヒシ國ヲ安ラカニ治メ給ハンガ爲メニ起シ給

ヒシ御東征ノ御擧<sup>チ</sup>文一ノ侵略<sup>ト</sup>見<sup>レ</sup>給<sup>ヒ</sup>テ内外ヨリ我  
建國ノ基ガ外國ノソレト等シク始祖ハ互ニ攻伐ノ結  
果最後ノ勝利者トシテ現ハレ給<sup>ヒ</sup>タルモノカノ如クニ伺  
ハレテ内ハ將來國民ヲシテ我國體カ史實上君幹臣枝  
ト君臣關係ナルヲ征服者被征服者ノ君臣關係ナリト  
誤解セシムルノ虞アルト同時ニ外ハ外國ヨリモ亦我國ヲ  
軍國主義ノ國ナリト疑ハシムル遺憾アリ  
而シテ皇澤ノ直接ニ及ブ國土ノ範圍ハ人皇ノ  
祖以前ハ素ヨリナレドモ以後ト雖モ時代ニヨリテ廣狹  
アリ其位置モ皇都ノ位置ト共ニ時代ニヨリテハ多少  
西東ニ移動セリ即チ皇祖皇大神ノ御時ニハ天ノ  
下ヲ悉ク治ラシ給<sup>ヒ</sup>皇孫瓊々杵尊ノ御時ニハ豐葦原

ノ瑞穗國ヲ悉ク治ラシ給<sup>ヒ</sup>然ルニ日向朝廷ノ終リ頃  
ソノ中部以東皇命ヲ奉ゼズナリシカバ神武帝討チ  
テコレヲ復シ給<sup>ヒ</sup>リ夫ヨリ凡ソ十世ノ後我東國及  
ビ西陲叛キシカバ景行帝討チテコレヲ復シ給<sup>ヒ</sup>ヘト  
リ尋デ仲哀天皇ノ御末年神功皇后征韓以來韓土モ  
久シク我屬國トナリタリシガ其後屢々叛キ天智帝  
ノ頃ヨリ遂ニ我國ヲ離レシガ明治天皇ノ御時再ビ  
レテ我國ニ併セ給<sup>ヒ</sup>ヘリ中世以後時ニハ國步艱難ノ  
患アリ又國威大陸ヲ壓シタル盛アリ而シテ其後ニ  
於テ更ニ海外諸方面ニ幾多ノ新領土ヲ加ヘサセ給<sup>ヒ</sup>  
フニヨリ現在ハ世界屈指ノ大國ト稱セラル、ニ至  
ラセ給<sup>ヒ</sup>ヘリ然レバ國家トイフ意義ノ條件ニハ必ズシテ

領土ノ廣狹ヲ要セスサレバ今假リニ我國土ノ内ヨリ  
北海道朝鮮及ビ其他ノ新領土ヲ除クモ日本帝國ハ  
日本帝國ナリ更ニ其殘リノ中ヨリ東國ハ中州ヲ  
除クモ日本帝國ハ日本帝國ナリ

又帝都ノ位置モ必ズシモ國ノ中央ニ限ラレズ現キ  
ソノ位置ノ東海道ニテモ可ナル以上ハ人皇ノ祖以  
前ニソレガ西海道タリシトテ可ナルベキハ勿論タトヒ  
天外異域ノ高天ケ原タリモ可ナリサレバ人皇ノ祖  
以後ニ於テ彼ノ豊臣氏ガ我帝都ヲ大陸ニ遷サント  
畫シタルガ如キ假リニ實現シタリシトスルモ我日  
本國ハ其場所ヲ中心ニ我日本國ナリ

然リ帝都ノ位置ニシテ皇國土ノ範圍ニシテ國家ト

云フ意義ノ條件ニ何等關係ナキコト斯クノ如シ況  
ンヤ儀式ノ有無、制度ノ完、不完等ニ於テヲヤ要ハ唯  
苟モ我日本民族ガ

萬世一系ノ至尊ヲ中心ニ戴キ奉リテ住スル所住シ  
タル所<sup>住シ得ル所</sup>是レ我大日本帝國ナリコレヲダニ具  
備セバ遠キ神代ノ昔ト雖モ國家トシテノ資格ハ決  
シテ現在ニ劣ルコトナキヲ信ズルモノナリ就テハ  
單ニ史實上、理論上ノミナラズ對外上殊ニ惡化シツ  
クアル現代思想善導上更ニ又國體明徴上

萬世一系ノ皇統御代數ハ皇統ヲ萬世ニ垂レ且ツ  
「天壤無窮」ノ御神勅ヲ以テ皇位ノ御璽タル三種  
ノ神器ヲ御代々ニ傳授シ給ヒタル皇元祖

十二  
天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ數ヘ奉ルコトニ  
ナサセラレ隨ツテ肇國ノ紀元モ皇大神ノサシ出  
給ヒシ御時ト定メラレ度即チ紀元節日ヲ伊勢大  
神宮ノ大祭日當日カ皇祖皇大神ニ因アル日ソ  
ノ日ニ於テ皇祖皇大神ノ御神勅奉讀式ヲ行ハセ  
ラル、等上下舉テ皇祖ニ大孝ヲ展ベ報本反始ノ  
誠ヲ致シマツルト同時ニ國民ガ  
皇室ニ對シテ寶祚ノ無窮ヲ祝シ奉ルニ極メテ意義  
アル日ニ選バセラレ尙コノ意味ニ於テ曆及ビ  
學校教科書等ニモ改正ヲ施サレ  
以テ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給  
ヘル事實ト特ニ我皇室ハ大神ノ正裔ニマシマスニ

依リソノ尊嚴ノ絶對ニマシマス所以ヲ明示シ併テ  
萬世一系ノ御代數ヲ直接中心ニ仰ギ奉リ得ル關係ヲ  
皇別ノ民ノミナラズ神別蕃別ノ民ノ思想ニモ及ボ  
サセラレ以テ我建國ノ始メハ世界ノアラユル古國  
ノソレヲ超越セル事實ヲ御表示アラセラレン事ヲ  
謹テ請願シ奉ル

昭和十四年二月廿七日

廣島縣安藝郡瀨野村大字上瀨野千六百四十三番地

松永良作

明治十七年八月二十五日生

廣島縣安藝郡中野村三六五番地

公立小學校長

世良正人

明治三十三年四月二日生

廣島縣安藝郡大野町一番地

縣社尾崎神社司

香川千代松

明治十一年十月二十日生

廣島縣安藝郡瀨野村大字上瀨野一三三九番地

真宗龍善寺住職

穴戸

純

明治三十三年四月十日生

廣島縣安藝郡善三所大字善三六〇七番地

廣島縣公立小學校長

田村成一

明治三十三年三月十一日生

廣島縣佐伯郡高田村一四二番地

真宗明慶寺住職

長政堯雄

明治廿七年一月二日生

廣島縣佐伯郡高田村一四二番地

柿浦產業會會長

孫川九一

明治廿七年七月廿八日生

廣島縣佐伯郡高田村一四二番地

公立小學校長

栗田淳一

明治廿二年九月廿二日生

廣島縣佐伯郡高田村一五九九番地

醫師

方

井

心

明治十四年四月一日生



廣島縣佐伯郡飛渡瀬村三五番地

村長 島本 孝一

明治三十二年二月十六日生

廣島縣安藝郡下蒲刈島村三之瀬区一九番地

公立小學校長 原本 定

明治三十二年四月五日生

廣島縣安藝郡下蒲刈島村四六六番地一

廣島縣安藝郡下蒲刈島村社々堂下西孫美登

明治三十五年一月三日生

廣島縣安藝郡下蒲刈島村向一三四番地

公立小學校長 藤井 義雄

明治三十八年八月十日生

廣島縣安藝郡上蒲刈島村田之区一四番

公立小學校長 荻野 英雄

明治三十四年五月九日生

廣島縣安藝郡上蒲刈島村二五六

廣島縣安藝郡上蒲刈島村石田志幹

明治三十二年十月廿四

廣島縣賀茂郡川尻町一六二番地一

公立小學校長 高橋 佐一

明治三十四年四月八日生

廣島縣安藝郡海田市町三八番地一

公立小學校長 清水 勇二

明治三十八年二月十八日生

衆議院議長 小山松壽殿

昭和四年二月十日呈  
請願第一一九號

萬世一系 皇統御太元並二  
肇國 紀元二關スル請願書

紹介議員 山道襄一

廣島県賀茂郡原村

佐々木源太郎

外十四名

皇統御太元並ニ肇國ニ關スル請願

謹ミテ惟ミルニ我大日本國

皇帝陛下ハ天祖即チ皇太祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ萬世一系ニ連

綿シ給ヘルニ拘ハラズ從來コノ皇統ノ御代號ヲ人

皇ノ祖神武天皇ヨリ起算シ奉リ我國ノ紀元モ亦

同帝御即位ノ年ヲ以テ元年ト定メラレアルモ人皇ノ

祖ハ神代ノ祖ト異姓ノ帝王ニアラセラレズ又其宗系

ヨリ分レテ別ニ一國ヲ立テサセラレタルガ如キ副系ニモマシ

マサズ天祖ノ正系タル皇室ニ御誕生遊バシテ御年十五ノ

時御父鵜草葺不合尊ヨリ既ニ皇太子ニ定メラ

レ給ヘル御方ナレバタトヒ中州御平定ノ御事ナクトモ我國  
ノ天位ニ就カセ給フベキ御資格ヲ有シ給ヘリサレバ  
萬世一系ノ皇位ハ  
御偉功ニ依リテ  
得給ヒシニアラズ

ヨリ有資格ニ入ラセ給ヒシモノニシテ無資格者ヨリ有  
資格者ニナリ給ヒシニアラズ

皇太子ノ有資格

又神武天皇御即位ノ御儀式ハ他ノ歴代御即位ノ  
御儀式ト同ジク  
萬歳ノ御即位式ニシテ決シテ萬

世ニ涉ラセラル、皇位始メト云フ義ノ御儀式ニテハア  
ラセラレズ皇國ノ皇位ハ千早振ル神代ノ昔ニ於テ

天照皇大神御出現ノ御時ニ肇マラセ給ヒコノ皇位ノ  
萬世無窮ニ傳ハラセ給フコトノ御儀式モ既ニ皇祖  
皇大神ガ皇孫ノ尊ニ天ツ日嗣ノ御璽タル三種ノ  
神器ト共ニ我大日本ノ國土ヲ授ケ給フ御時「天壤無窮」ノ  
御神勅ヲ以テ完全ニ行ハセ給ヒキサレバ宮中ニ於カセ

ラレテハ  
御歴代ノ天皇何レモ

天照皇大神ヲ皇祖ト崇メ奉リ祭祀ヲ慎ミ至大ノ  
孝養ヲ盡シ給ヒ國民モ亦皆  
伊勢大廟ヲ國家ノ總氏神ト唱ヘ奉リテ世々崇敬シ  
祀リケレバソノ大祭日ハ往古ハ恰モ皇國ノ建國祭  
即チ肇國ノ紀元節ニモ該當シタリシモノナリトモ  
言ヒ得ベシ

天照皇大神ヲ皇祖ト崇メ奉リ祭祀ヲ慎ミ至大ノ  
孝養ヲ盡シ給ヒ國民モ亦皆  
伊勢大廟ヲ國家ノ總氏神ト唱ヘ奉リテ世々崇敬シ  
祀リケレバソノ大祭日ハ往古ハ恰モ皇國ノ建國祭  
即チ肇國ノ紀元節ニモ該當シタリシモノナリトモ  
言ヒ得ベシ

然ルヲ太古神代ノ事ハ渺漠トシテ攷フベカラズトナシテ  
是ヲ究メズ或ハ 列聖ノ御代號ヲ 中興ノ祖ヨリ數  
ヘ奉リ或ハ又我帝國ノ紀元ヲソノ年代ノ途中ニ置キ  
テ殆アラユル場合ニ我國ハ 神武創業以來云々ト稱  
フルルハ我國ノ年齢ハ其古サニ於テ世界歷史上ノ立場ヨ  
リ見テ第二一流トナルノミナラズ我 皇基ハ 大神ノ神勅ニ

依リテ確實ニ定マラセ給ヒシヲ 神武ノ御武威ヲ  
仰ギテ始メテ確實トナリシカト迄疑ヒ奉リ若クハ  
萬世一系ノ皇位モ 神武ノ中州御平定ニ依リテ  
始メテ認メラレ同時ニ 皇大神ノ神勅ガ有効ト  
ナラセラレタルカノ如クニ伺ハレ

我國體ノ金甌  
無缺ナル所以ガ 人皇ノ祖以後ニ於テノミノ事ニ屬

シモノカノヤウニ誤マラレ

七

...

内ハ將來國民ヲシテ我國體カ史實上 君幹臣枝

ノ 君臣關係ナルヲ征服者被征服者ノ君臣關係ナリト

誤解セシムルノ虞アルト同時ニ外ハ外國ヨリモ亦我國ヲ

軍國主義ノ國ナリト疑ハシムル遺憾アリ

而シテ 皇澤ノ直接ニ及ブ國土ノ範圍ハ 人皇ノ

祖以前ハ素ヨリナレドモ以後ト雖モ時代ニヨリテ廣狹

アリ其位置モ皇都ノ位置ト共ニ時代ニヨリテハ多少

西東ニ移動セリ

皇祖皇大神ノ御時ニハ天

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...

...



領土ノ廣狹ヲ要セズ、  
北海道朝鮮及（其領土ノ新領ニシテ、除キ、日本帝國ハ日本帝國ナリ、更ニ其殘存ノ領土ハ、東洋ノ中州、除キ、日本帝國ハ日本帝國ナリ、）  
又帝都ノ位置モ必ズシモ國ノ中央ニ限ラレズ、  
又位置ノ東海道（一、東海道ノ東、一、東海道ノ西、一、東海道ノ南、一、東海道ノ北、）  
不外異域ノ高天夕原（一、高天夕原ノ東、一、高天夕原ノ西、一、高天夕原ノ南、一、高天夕原ノ北、）  
本國ハ其場所ヲ中心ニ我日本國ナリ  
然リ帝都ノ位置ニシテ皇國土ノ範圍ニシテ國家ト

云フ意義ノ條件ニ何等關係ナシ、  
シヤ儀式ノ有無、制度ノ完不完等ニ於テ、  
苟モ我日本民族ガ  
萬世一系ノ至尊ヲ中心ニ戴キ奉リテ住スル所住シタル所（住シ得ル所）是レ我大日本帝國ナリコレヲダニ具備セバ遠キ神代ノ昔ト雖モ國家トシテノ資格ハ決シテ現在ニ劣ルコトナキヲ信ズルモノナリ就テハ、單ニ史實上、理論上ノミナラズ對外上殊ニ惡化シツ、アル現代思想善導上、  
萬世一系ノ皇統御代數ハ、皇統ヲ萬世ニ垂レ且ツ「天壤無窮」ノ御神勅ヲ以テ、皇位ノ御璽タル三種ノ神器ヲ御代々ニ傳授シ給ヒタル、皇元祖

天照皇大神ヨリ神代人皇ヲ通ジテ數ヘ奉ルコトニ  
 ナサセラレ隨ツテ肇國ノ紀元モ 皇大神ノサシ出  
 給ヒシ御時ト定ツラレ度即チ紀元節日ヲ 伊勢大  
 神宮ノ大祭日當日カ 皇祖皇大神ニ因アル日——ソ  
 ノ日ニ於テ 皇祖皇大神ノ御神勅奉讀式ヲ行ハセ  
 ラル、等上下舉テ 皇祖ニ大孝ヲ展ベ報本反始ノ  
 誠ヲ致シマツルト同時ニ國民ガ  
 皇室ニ對シテ寶祚ノ無窮ヲ祝シ奉ルニ極メテ意義  
 アル日——ニ選バセラレ尙コノ意味ニ於テ曆及ビ  
 學校教科書等ニモ改正ヲ施サレ  
 以テ天壤無窮ノ皇運ハ天地開闢ノ初ヨリ保有シ給  
 ヘル事實ト特ニ我 皇室ハ 大神ノ正裔ニマシマスニ

依リソノ尊嚴ノ絶對ニマシマス所以ヲ明示シ併テ  
 萬世一系ノ御代數ヲ直接中心ニ仰ギ奉リ得ル關係ヲ  
 皇別ノ民ノミナラズ神別蕃別ノ民ノ思想ニモ及ボ  
 サセラレ以テ我建國ノ始メハ世界ノアラユル古國  
 ノソレヲ超越セル事實ヲ御表示アラセラレン事ヲ  
 謹テ請願シ奉ル

昭和十四年二月十一日

廣島縣安芸郡原村八百九番地

原村長 佐々木源太郎

明治四十年一月七日生

廣島縣賀茂郡原村貳百七拾九番屋敷

重河信二

明治十年十月一日生

廣島縣賀茂郡原村貳百貳拾貳番地

黒川宗曹

明治十年四月五日生

廣島縣賀茂郡原村貳百貳拾五番地

地京武満

明治四十二年九月二十日生

廣島縣賀茂郡原村四百貳拾六番地貳

二宮都一

明治拾八年四月拾貳日生

廣島縣御調郡坂井原村貳百七拾四番地

植田伊三夫

明治參拾七年拾貳月八日生

廣島縣賀茂郡寺西村七千貳百九拾貳番地

梶井榮

明治四十年貳月四日生

廣島縣賀茂郡川上村大字飯田千百參拾七番地

石井清

明治三十八年三月二日生

廣島縣賀茂郡原村四百四拾壹番屋敷

三好光人

明治三十五年十一月二十日生

廣島縣賀茂郡寺西村大字寺家三千九百二十九番地

佐 木 春 雄

明治四十一年六月五日生

廣島縣賀茂郡川上村大字殿田九百八十九番地

神 笠 春 朝

明治四十年十二月廿七日生

廣島縣賀茂郡丹海町千五百四十七番地

桐 山 弥 子

大正元年九月一日生

廣島市金屋町九拾參番地

山 田 弘

明治拾八年十二月廿八日生

廣島縣賀茂郡原村五千五百五十三番地

上 城 克 巳

明治廿三年二月十三日生

廣島縣賀茂郡原村九千貳百七拾貳番地

景 山 正 邦

明治九年十月一日生

衆議員議長

小山松壽殿

